

市町村名	宮古島市						
平成 2 5 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	与那覇地区防災センター整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (4) - イ	
担当部課名	総務部 防災危機管理班	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
- 1 0 - (2)							
事業内容	海沿いに面した海拔の低い与那覇地区に防災センターを整備し、地域住民の災害時における避難場所を確保する。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度
		(a)当初予算額	15,000	-	152,000	-	
		(b)予算現額	13,995	-	152,000	-	
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,005	-	0	-	
		(d)繰越額	-	-	-	132,569	
	A. 計(b+d)		13,995	13,994	152,000	132,569	
	B. 執行済額		0	13,994	4,303	132,353	
	うち交付金充当額		0	11,195	3,442	105,882	
	次年度繰越額		13,994	-	132,569	-	
	執行率(%) (B/A)		0.0%	100.0%	2.8%	99.8%	
予算の状況の説明		平成25年度においては、解体後に建築予定地から埋蔵文化財が発見され、調査が行われた。そのため工事の日数に不足が生じ次年度への繰越となった。平成25年度繰越では、避難所の建築を行い予算執行率は、99.8%であり計画どおりの執行であった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	避難施設の整備RC造2階建て	目 標	(実施設計)	(RC造2階建て)	()	()	
		実 績	実施設計	3階建て			
	達成状況説明	公表されている成果目標の中の活動目標「避難施設の整備RC造2階建て」は、記載が誤っており「避難施設の整備RC造3階建て」が正しい表記となる。 平成25年度に解体工事を実施した。平成26年度に、建築工事、機械工事、電気工事を実施し、海拔11.5メートル3階建ての「与那覇地区防災センター」が完成した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	避難施設の整備完了	目 標	()	(避難所施設の整備完了)	()	()	()
		実 績		避難所施設の整備完了			
	避難所指定箇所数 1箇所	目 標	()	(1箇所)	()	()	()
		実 績		1箇所			
	「約400人の避難場所の確保」	目 標	()	(避難場所確保)	()	()	()
		実 績		避難場所確保			
	進捗状況説明	平成27年2月27日に与那覇地区防災センターが完成した。3月に避難所指定を行い与那覇地区約400名の避難場所が確保された。また、平成27年4月には宮古島地方に津波注意報が発令され、近隣の住民が避難し活用された。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化) 海沿いに面した海拔の低い与那覇地区の地域住民及び観光客の災害時における避難場所を確保するために与那覇地区防災センターを整備した。当初RC造2階建ての予定であったが実施設計を進めていくなかで、トイレ等を1階部分から屋上部に設置したことでRC造3階建てとなった。 平成25年度では既設の建物解体工事を行ったが、埋蔵文化財が発見され、教育委員会の調査を実施する必要が生じたため、建築工事を平成26年度に着手し完成した。 工事を実施していくなかで、一部支持層が確認出来なかったため追加のボーリング調査を実施することになり時間を要した。 防災センターの完成により地域住民の避難場所を確保することができた。速やかに避難ができるよう住民に対し周知していく必要がある。	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点) 追加ボーリング調査を行った結果、支持層は確認できたものの、予定していた工法では施工ができないことから、工法を変えて対処した。 今後は設計の段階で、地域の特徴や地形の現況等の情報収集を行い、工法の変更等が生じないよう取り組む。 住民の津波避難に対する防災意識の向上を図って行くため、防災センターを活用した避難訓練や防災に関する研修会を実施していく。
	今後の取り組み方針	
与那覇地区防災センターへ、スムーズな避難ができるよう訓練を実施する。更に地域の役割や連携を確立させるよう防災に関する研修会を実施し、住民の防災に対する意識の向上を図る。		

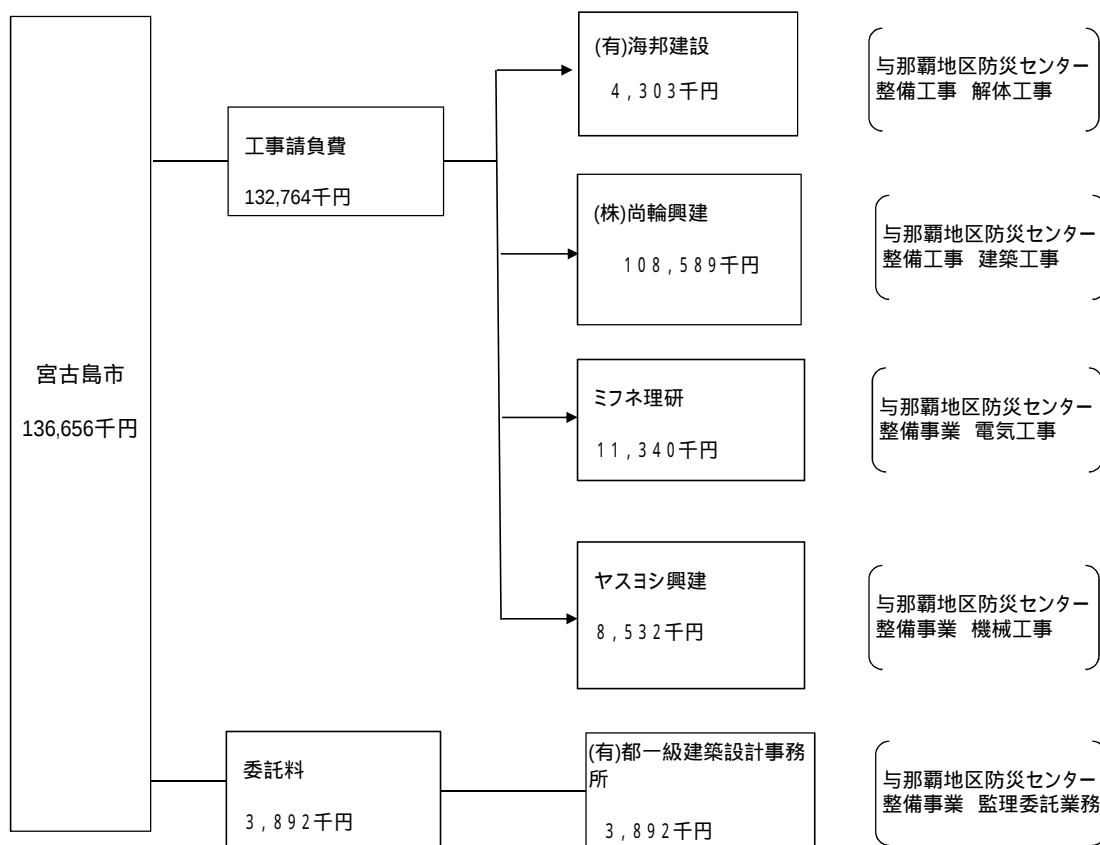
今後の取り組み方針

与那覇地区防災センターへ、スムーズな避難ができるよう訓練を実施する。更に地域の役割や連携を確立させるよう防災に関する研修会を実施し、住民の防災に対する意識の向上を図る。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
136,656	136,656	109,324	27,332	0



資金の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 工事契約・委託契約とも指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。 ○ 不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○ 費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成 2 5 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 - 無電柱化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 2 - (4) - イ		
担当部課名	建設部 道路建設課		事業実施(予定)年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 - 10 - (2)	
事業内容	上野海岸線及び新里21号線周辺地域の無電柱化を行うことにより、台風等による電柱倒壊による道路の寸断を防ぎ、電力、通信の安定供給や信頼性の向上、景観の向上を図り、安心・安全・快適な環境を提供する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	28年度
		(b)予算現額	11,000	-			
		(c)増減額(b-a)	11,714	-			
		(d)繰越額	714	-			
		A. 計(b+d)	-	9,656			
	B. 執行済額		11,714	9,656			
		うち交付金充当額	2,058	9,655			
			1,646	7,724			
	次年度繰越額	9,656	-				
	執行率(%) (B/A)	17.6%	100.0%				
予算の状況の説明	関係機関との調整により整備延長距離が当初のL=780mよりL=1,140m増加したことにより714千円の増となり、電線類の配線計画の調整や設計変更等に不測の日数を費やしたため実施設計委託業務9,656千円を平成26年度に繰り越した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	実施設計委託業務	目 標	(実施設計策定)	()	()	()	
		実 績	配線計画、実施設計策定				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	平成25年度に配線計画(電力・通信)策定、実施設計を実施、平成26年度は繰り越した実施設計を完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	実施設計委託業務	目 標	()	(実施設計完了)	()	()	()
		実 績		実施設計完了			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	H25年度事業で策定した上野海岸線・新里21号線の配線計画及び実施設計を基に、H26～H28年度において、国土交通省が所管する社会資本整備総合交付金を活用し、電線共同溝本体の整備を行うと伴に変圧器やケーブルなどの整備を実施する。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本市では、防災や観光地の景観の向上として無電柱化事業を推進しているが、市道での整備が無いため観光地での風光明媚な景観向上の妨げとなっていたため、観光地の沿線である上野海岸線・新里21号線の無電柱化事業の実施設計書を作成した。 上野海岸線・新里21号線の無電柱化の実施設計については、当初計画延長L=780mからL=1,140m増延長し事業費を増額した。また関係機関と電線類の配線計画の調整や設計変更等に不足の日数を費やしたため平成26年度に繰越して事業を実施した。 作成された実施設計、配線計画に基づいて整備がスムーズに行えるよう関係機関との調整を密に行う必要がある。	当初計画より工期が大幅に送れてしまったので、事業を推進していく上で、今後、関係機関とこれまで以上に緊密に意思疎通を図り、実施設計、配線計画に基づいて整備を推進していく。
今後の取り組み方針		
H26～H27年度において社会資本整備総合交付金を活用し、電線共同溝本体の整備を行う。 H28年度に変圧器やケーブルなどの整備を行い、H29年度に供用開始予定。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
11,713	11,713	9,370	2,343	0
宮古島市 11,713千円 委託料 11,713千円 (株) 日建コンサルタント 9,655千円 (株) 沖縄エネテック 1,281千円 エヌ・ティ・ティ・インフラネット (株) 九州支店 777千円 〔 調査測量設計にかかる委託業務 〕 〔 配線計画(電力)にかかる委託業務 〕 〔 配線計画(通信)にかかる委託業務 〕				
資金の 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○ 委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。また配線計画(電力・通信)の随意契約においても電力や通信等特殊な業務であるため妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○ 予算規模については不用額も無く適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○ 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市						
平成 2 5 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	伝統工芸館整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	観光商工局 商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						-1-(1)	
事業内容	国の無形文化財に指定されている「宮古上布」の歴史が学べ、機「ハタ」を使っの織物体験ができる伝統工芸館を新たに整備する。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	220,000	-	36,845	-	
		(b)予算現額	269,153	-	38,545	-	
		(c)増減額(b-a)	49,153	-	1,700	-	
		(d)繰越額	-	267,525	-	25,052	
	A. 計(b+d)		269,153	267,525	38,545	25,052	
	B. 執行済額		1,627	253,457	13,449	18,974	
	うち交付金充当額		1,302	202,766	10,759	15,179	
	次年度繰越額		267,526	-	25,052	-	
	執行率(%) (B/A)		0.6%	94.7%	34.9%	75.7%	
予算の状況の説明		関係者との調整により、伝統工芸館内の設備充実を図るため、1,700千円流用し、平成25年度において案内用展示物作成及び備品購入を実施した。 事業を実施するなか、外構整備工事において石工等に追加の工事が発生し、不測の日数を要した為、繰越事業となった。 不用額6,079千円については、現場状況に即した設計の積算及び指名競争入札による入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	伝統工芸館外構整備	目 標	(伝統工芸館外構整備)	()	()	()	
		実 績	伝統工芸館外構整備・展示物制作・備品購入				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	工芸館周辺の整備として伝統工芸館整備工事(外構)を完了した。 館内の設備充実を図るため、備品購入業務、展示物制作業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	伝統工芸館外構整備	目 標	()	(伝統工芸館外構整備)	()	()	()
		実 績		伝統工芸館外構整備 展示物制作・備品購入			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	平成26年度4月末で整備は完了している。4月より供用開始された施設において、商品の展示スペース、駐車場の確保が可能となり、観光誘客施設としての利便性が向上した。指定管理制度による管理者を選定し、国の無形文化財に指定されている「宮古上布」の歴史学習や織物体験等宮古上布の魅力を発信し、担い手を育成する拠点として運営されている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	旧施設の老朽化に伴い、観光施設としての機能、後継者・育成・体験学習の場としての利用活用の機能の拡充強化が要求されてることから、建替移設が実施された施設。外構工事として、境界の石積み、体験用の苧麻畑等の整備を行ったが、石積工等に追加の工事が発生し、平成26年度に繰越を行った。 また、移転計画に沿って、平成25年に展示方法の充実を図る目的で展示物を制作、体験の場等の備品としてテーブル等を購入した。 施設の完成により、商品の展示スペース、駐車場の確保が可能となり観光誘客施設として利便性が向上した。「宮古上布」の歴史学習や織物体験等による上布の魅力を発信し、担い手を育成する拠点として、平成26年4月より指定管理制度による管理者を選定し、管理運営を行っている。 入館者数は、旧施設と比較して約9倍の増(5,546人)となっている。	当初計画よりも、工期延長による事業の遅れがあったため、今後の事業実施に関しては、事業関係者とこれまで以上に緊密に意志疎通を図り、不測の事態が発生しても契約期間の延長等がないよう余裕を持った工期設定を行いたい。 旧施設と比較して入館者数は増加しているが、運営委員会等を開催し、入館者アンケートを基に、再度体験メニュー、展示物の構成の等の検証を行い、施設の管理運営に反映させ、宮古上布の売り上げ増、来館者の増加に繋げる。
今後の取り組み方針		
指定管理者と協力して、バス会社への観光ツアールートへの組込依頼、島内上布取扱店又は島外展示会への施設パンフレットの設置等継続した施設の周知活動を行うとともに、毎年1回開催予定の運営委員会において来館者のニーズの分析検討を行い、適正な管理運営に繋げる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32,423</td><td>32,423</td><td>25,938</td><td>6,485</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	32,423	32,423	25,938	6,485	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
32,423	32,423	25,938	6,485	0										
宮古島市 32,423千円 需要費 480千円 (有)アプロ 480千円 宮古島市伝統工芸品センター展示物制作 工事請負費 30,766千円 (株)バイオニア 30,766千円 宮古島市伝統工芸館新築工事(外構) 備品購入費 1,177千円 建具工房 362千円 大嶺商事 815千円 宮古島市伝統工芸品センター備品導入業務 (作業用テーブル・総合案内台) 宮古島市伝統工芸品センター備品導入業務 (会議用テーブル・折りたたみ椅子)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 工事・備品購入は指名競争入札により実施、需要費・備品購入においては宮古島市契約規則による随意契約にて受託者を選定しており、支出先方法は妥当であったと考えている。											
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 予算規模について、需要費・備品購入費においては、不用額43千円であり、適正であったと考えている。工事費については、一部現場発生の資材を活用する積算に変更したこと、入札により不用額が発生した。 ○ 費用・使途については、完了検査にて確認、適正であったと考えている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
平成 2 5 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	エコアイランド宮古島周遊エコツアー整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
担当部課名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進	
						-1-(1)	
事業内容	本市のエコ関連施設において、観光客や市民等が設備を見学できる設備を整備し観光振興を図る。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度
		(b)予算現額	29,400	-	135,278	-	
		(c)増減額(b-a)	25,400	-	135,278	-	
		(d)繰越額	▲ 4,000	-	0	-	
		A. 計(b+d)	-	21,400	-	72,983	
	B. 執行済額		25,400	21,400	135,278	72,983	
		うち交付金充当額	3,634	7,209	62,295	64,602	
			2,907	5,767	49,836	51,681	
		次年度繰越額	21,400	-	72,983	-	
	執行率(%) (B/A)	14.3%	33.7%	46.0%	88.5%		
予算の状況の説明	・当初計画の変更により、建築場所や設計等が見直された結果、不用額が発生した。 ・メガソーラー展望台を建設すると共に、バイオエタノール製造施設内にエコ施設や取り組み等を紹介するPR館を建築した。PR館において、工期中の悪天候及び施設沿いに流れる用水路への土砂流出防止の為、設計変更等により不測の日数を要したため繰越事業となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・メガソーラー展望台施設の整備	目 標	(基本設計の実施)	(メガソーラー展望台整備)	()	()	
		実 績	基本設計の実施	メガソーラー展望台整備			
	・PR館(仮称)の整備	目 標	()	(PR館(仮称)の整備)	()	()	
		実 績		PR館(仮称)の整備			
達成状況説明	・メガソーラー展望台は、メガソーラー実証研究設備の中央部分に建設し、平成26年3月17日に完成した。 ・PR館は、バイオエタノール製造施設内に建設し、平成26年5月20日に完成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・メガソーラー展望台施設の整備	目 標	()	(基本設計)	(メガソーラー展望台整備)	()	()
		実 績		基本設計	メガソーラー展望台整備		
	・PR館(仮称)の整備	目 標	()	()	(PR館(仮称)の整備)	()	()
		実 績			PR館(仮称)の整備		
	進捗状況説明	・メガソーラー展望台は、平成26年4月10日に供用開始した。 ・PR館(愛称:エコパーク宮古)については、展示物の製作や配置の検討などに時間を有した為、平成26年10月8日に供用開始。 ・メガソーラー実証研究設備の中央部分に建設した展望台、及びバイオエタノール製造施設内に建築された島内のエコ施設や取り組みを紹介するPR館において、地域住民のみならず観光及び視察研修等で訪れた方々が施設を利用し、平成26年度(平成26年10月～平成27年3月)のPR館の目標来館者数1,000名に対し、1,009名の来館者数であった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・当初計画において、PR館及びメガソーラー展望台は、メガソーラー実証研究設備付近の同じ場所に建設し、メガソーラー設備管理者(以下、「設備管理者」)に指定管理を依頼する予定が、施設管理者が指定管理を出来なくなった為、管理を必要としない無人でも運営できるメガソーラー展望台を、来場者が自由に出入り出来る場所へ建設し、展示物などが有り管理が必要なPR館は予定地を変更し、バイオエタノール製造設備敷地内へ建設した。 ・メガソーラー展望台において、メガソーラー実証研究設備の設備管理者との事前調整を行っていたが、上記の計画変更に伴い建築場所の選定後、建築物の影による影響の調査等が必要だった。 ・PR館の建築予定地は軟弱地盤なので、基礎工事の工法検討に時間を有し、現場では掘削時に湧水が確認された為、対策が必要となった。 ・PR館沿いにある用水路への土砂流出対策が必要となったため、追加工事が生じた。 ・課題については、メガソーラー展望台は、郊外に位置し無人の為、定期的な管理が必要。PR館については、今後の施設管理及び集客を検討する事が必要となる。	・メガソーラー展望台はメガソーラー設備のほぼ中央に建設したが、無人のため定期的な管理を実施する。ただし、緊急時は本市城辺庁舎の職員により対応する事とする。 ・メガソーラー展望台建築による影の影響については、日陰のシミュレーションを行い、建築場所や建物自体の形状の調整を講じた。 ・PR館はバイオエタノール製造施設の敷地内にあり、指定管理により管理を行っているが、今後、展示物の充実が必要となる。 ・PR館において軟弱地盤の対策、土砂流出防止のため芝張り、根切り、客土、低木植樹などを行い、対策を講じたが、台風及び豪雨時の監視が必要となる。 ・PR館の台風及び豪雨の対策については、指定管理者による対策を講じる。 ・事業スケジュールを円滑に進めるため、進捗状況の把握や確認を行うため、定期的に工程会議を実施した。
今後の取り組み方針		
・メガソーラー展望台及びPR館は、周遊エコツアーのコースに取り入れ、観光施設としても更なる利用を促進していく。 ・PR館内においては、説明パネルやパッチパネルを用いて文字や動画音声により、エコ施設や本市の概要や取り組みが視聴できるようになっており、視察や研修等の団体対応の映像も作成し完備している。また、島内の電力需給バランスを体験できるシミュレーターも設置しており電力の学習にも寄与している。今後、各設備の維持管理はもちろんイベントの開催により、更なる集客やエコアイランド宮古島の啓発啓蒙に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		126,897	126,897	101,517	25,380	0

宮古島市
126,897千円

委託費
3,405千円

大成設計事務所
584千円
(メガソーラー展望台建設工事監理業務委託)

有限会社 シモマサ設計
2,821千円
(エコアイランド宮古島PR館建築工事監理業務委)

工事請負費
123,492千円

有限会社 下北建設
23,688千円
(メガソーラー展望台建設工事)

株式会社 南西建設
56,893千円
(エコアイランド宮古島PR館建築工事(建築))

株式会社 朝日建設工業
19,278千円
(エコアイランド宮古島PR館建築工事(機械))

大和電工 株式会社
23,633千円
(エコアイランド宮古島PR館建築工事(電気))

資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託及び工事の業者選定は全て指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模については、当初予定より大幅な設計変更があった為、不用額が生じた。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成 2 5 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	バイオエタノール高効率製造・流通事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
担当部課名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進	
						-1-(1)	
事業内容	本市の基幹作物であるサトウキビのカスケード利用を通じた循環型社会の構築及び沖縄産バイオエタノールの事業化を目指す。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度
	予算の状況	(a)当初予算額	44,377	-	60,000	-	
		(b)予算現額	44,377	-	86,000	-	
		(c)増減額(b-a)	0	-	26,000	-	
		(d)繰越額	-	17,500	-	86,000	
		A.計(b+d)	44,377	17,500	86,000	86,000	
	B.執行済額		16,656	16,662	0	82,492	
	うち交付金充当額		13,325	13,330	0	65,993	
	次年度繰越額		17,500	-	86,000	-	
	執行率(%) (B/A)		37.5%	95.2%	0.0%	95.9%	
予算の状況の説明		・排水処理設備の修繕費(1,200万円)及び前倒しのバイオエタノール製造費(1,400万円)を補正増額。 ・E3流通事業に係るガソリン販売業者との協議の遅れにより、次年度へ86,000千円繰り越した。 ・不用額が3,508千円発生しているが、E3流通量が想定を下回った事による製造量減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	1)バイオエタノール製造の安定的かつ効率的な製造基礎技術の確立	目標	製造技術確立	()	()	()	
		実績	製造技術確立				
	2)副産物の有効利用に係る商業化基礎技術の確立	目標	副産物の商業化基礎技術の確立	()	()	()	
		実績	副産物の商業化基礎技術の確立				
達成状況説明	高効率アルコール発酵法の検討、蒸留設備能力の確認、肥料開発の施肥効果試験等、高効率製造に向けたデータ収集を行った。 (1)バイオエタノールの製造技術に関して、濃縮塔能力試験等を行ったデータから、効率的な製造方法を確立した。 (2)蒸留残渣液の有効成分の分析、また、窒素、リン酸、カリウムの配合比率を変えた複数のサンプルを作成し、様々な作物で栽培試験などを行い、肥料としての有効性を確認した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	バイオエタノールの製造	目標	()	バイオエタノール製造	バイオエタノール製造	()	()
		実績		6,355リットル製造	36,858リットル製造		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・設備の試験運転を主としたH24年度に比べ、製造回数が増えたため、バイオエタノールの製造量も増えた。 ・バイオエタノールを36,858リットルの製造と副産物の施肥効果試験を行った。ただし、バイオエタノール製造量については、E3燃料の販売量が想定を下回ったため、E3燃料の原料となるバイオエタノールの製造量も想定を下回った。 ・副産物の商業化技術、有効活用を検証し、農産物への液肥として効果があることが確認できた。					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・H25年度: バイオエタノール製造・流通の事業化を目的として、製造技術の確立、製造残渣液の肥料としての有効性の確認を行った。 ・H26年度: バイオエタノール製造・流通の事業化を目的として、事業性の評価、見直し及びバイオ燃料(E3燃料)の流通安定化検証を行った。 バイオエタノールの製造コストが高いため、一般流通のガソリンに比べ割高となっていることから、コスト削減が課題となる。 E3燃料の混合元となる基材ガソリン及び販売に係る流通経路がどちらも島内1箇所と限られているため、流通量も限定され、そのため、原料となるバイオエタノールの製造量も少ない。	バイオエタノールの製造コスト削減について、製造残渣液の液肥としての販売のため、作物への効果の検証が必要である。 バイオエタノールの製造量増加のため、E3燃料の啓蒙による販売増加の取組や、バイオエタノールのE3燃料以外への販路の検討などが必要である。
今後の取り組み方針		
今後は、バイオエタノールの製造に使用される酵母菌を変更しての製造試験など、さらなる高効率化を検証することで製造コスト圧縮を目指すだけでなく、バイオエタノールの燃料以外の活用、残渣有機成分の有効利用など様々な方向からの事業の採算性の検証を進め、流通経路を確保し、事業化の検証に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>82,492</td><td>82,492</td><td>65,993</td><td>16,499</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	82,492	82,492	65,993	16,499	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
82,492	82,492	65,993	16,499	0										
宮古島市 82,492千円 委託料 82,492千円 日本アルコール産業株式会社 82,492千円 バイオエタノール製造、流通事業委託業務														
資金の流 使途の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託事業者は製造施設の指定管理者であり、また当事業はこの製造施設を活用して行われること、企業組織、実績、知識等からも同社へ委託することが適当であり、競争に適さないと考え随意契約とした。 ○ 予算内容としては、製造に係る経費がほとんどであり、適正な規模と考える。 ○ 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		宮古島市						
平成 2 5 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名		7		子育て環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		
担当部課名		福祉部 児童家庭課		事業実施(予定)年度		平成25年度		
						沖縄振興基本方針該当箇所		
						第3章 - 2 - (2) - イ		
						地域における子育て支援の充実		
						- 4		
事業内容		地域の子ども達に健全な遊びを与え、健康増進と情操を豊かにすることを目的として児童館建設にかかる設計業務を委託する。						
実施方法		☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	28年度
		予算の状況	(a)当初予算額	13,567	-			
			(b)予算現額	13,567	-			
			(c)増減額(b-a)	0	-			
			(d)繰越額	-	12,348			
			A.計(b+d)	13,567	12,348			
		B.執行済額		0	12,348			
		うち交付金充当額		0	9,878			
		次年度繰越額		12,348	-			
		執行率(%) (B/A)		0.0%	100.0%			
予算の状況の説明		建設予定地に併設予定であった施設が都市計画法及び建築基準法の用途上建設できない施設であることが判明した。施設配置計画の見直しを含めた調整が必要であり、その間設計業務を中断するため年度内の完了が困難となったため繰越した。不用額1,219千円は、入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況		H25活動目標(指標)		達成状況				
				25年度	26年度	27年度	28年度	
		児童館建設のための実施設計(平良地区)	目標	(実施設計)	()	()	()	
			実績	実施設計完了				
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明		建設予定地に併設予定であった施設が都市計画法及び建築基準法の用途上建設できない施設であることが判明した。施設配置計画の見直しを含めた調整が必要であり、その間設計業務を中断するため年度内の完了が困難となったため繰越となった。 平成26年度に基本及び実施設計の業務委託を行い、平成27年3月に完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況		H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
		児童館建設のための実施設計完了	目標	()	(実施設計完了)	()	()	()
			実績		実施設計完了			
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
		進捗状況説明		平成26年度に、建設予定地を決定し基本及び実施設計を完了した。基本及び実施設計を基に平良児童館の完成を目指す。 【施設の規模】敷地面積1409.94㎡、建築面積494㎡(児童館312.7㎡、子育て支援センター50.3㎡、放課後児童クラブ131㎡)				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	地域の子ども達に健全な遊びを与え、健康増進と情操を豊かにすることを目的として児童館建設にかかる設計業務を委託した。建設予定地に併設予定であった施設が都市計画法及び建築基準法の用途上建設できない施設であることが判明し、施設配置計画の見直しを含めた調整が必要となった。それにより、設計業務を中断することとなり、年度内の完了が困難となったため、平成26年度へ繰越事業となった。 要因は、併設予定であった保健施設(保健センター)の規模について、関係法令に基づく審査にかなりの時間を要することが判明したことによるが、当該要因が申請段階で想定される事由だったのかも含め、建設予定地の選定方法等について検証し、計画的な事業推進に繋げる必要があった。	当該施設の建設にあたり、他施設との連携を図る目的で協議が進められた経緯があったことから、併設する施設の計画等の内容についても十分把握すると共に、関係部署との連携強化に努める必要があった。 具体的な改善策として、建設できる施設なのか、関係法令(都市計画法、建築基準法等)を読み込み、規制内容を下調べすると共に、関係法令に基づく審査に要する時間等についても、的確に調べた上で、正確なスケジュールを立てるなどの対策を講じるべきだった。
今後の取り組み方針		
今後、児童館の建設に関する予定地の選定等にあたっては、関係部署と十分な協議等を実施した上で進めていく。 平良児童館建設は、平成27年度の完成を目指す。(次世代育成支援対策施設整備交付金、沖縄県安心こども基金事業補助金を活用)		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>12,348</td><td>12,348</td><td>9,878</td><td>2,470</td><td>0</td></tr></table> 宮古島市 12,348千円 委託費 12,348千円 ライフ設計 12,348千円 (宮古島市平良児童館設計委託業務)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,348	12,348	9,878	2,470	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,348	12,348	9,878	2,470	0										
資金の 使途の 流れ、 検 査 ・ 費 目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○ 委託の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○ 予算規模については不用額は1,219千円であり、適正な規模であったと考えている。										
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○ 費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												